

令和3年度 総合評価落札方式（一部プロポーザル 方式を含む）の主な変更点（業務）

国土交通省 九州地方整備局

令和3年3月

基本方針

- 九州地方整備局では、平成19年度より総合評価落札方式の試行・導入を図ってきたところであり、それまでの主な調達方式であったプロポーザル方式と価格競争を含めて業務特性に応じた運用に努めてきた。
- 令和元年6月には、受注競争の激化による地域の建設産業の疲弊や就労環境の悪化に伴う担い手不足等の課題を踏まえ、現在及び将来にわたるインフラの品質確保とその担い手の中長期的な育成・確保を図るため、「担い手三法（品確法、入契法、建設業法）の改正が行われた。改正品確法における受発注者の責務（働き方改革の推進、生産性向上への取り組み、災害時の緊急対応強化、調査・設計の品質確保）をいかに現在の入札・契約手続きの中に取り入れ、実現していくかが重要である。
- このような状況を踏まえ、九州地方整備局では、担い手育成・確保を図る「担い手育成型」、地域コンサルタント等の技術力向上と競争参加機会の拡大を図る「技術提案チャレンジ型」、技術提案資料作成及び審査の簡素化を図る「技術提案簡素化型」、技術提案資料作成・審査の簡素化と手続き期間の短縮を図る「簡易型ショート版」等の試行業務の発注に鋭意取り組んでいるところである。
- 今般、それぞれの試行業務の課題等についてアンケート調査を行ったところ、改善すべき点が明らかになった。このため、令和3年度は、アンケート調査結果を踏まえた改善を行い、試行業務の発注を継続していくこととする。

総合評価落札方式の改定のポイント

R3年度からの総合評価における新たな取り組み

1. 技術提案簡素化型の技術提案書文字数及び評価方法の変更

技術提案簡素化型（総合評価方式、プロポーザル方式）の技術提案書の文字数及び評価方法について、試行結果を踏まえ変更する。

⇒ 現行：

技術提案簡素化型（総合評価方式、プロポーザル方式）

実施方針は800字以内で記載 A4版1枚

評価テーマに対する提案は1200字以内で記載 A4版1枚

評価テーマに対する提案の評価方法

「的確性（与条件との整合性、着眼点等を個別評価）、実現性（説得力、業務実績を個別評価）」

→ 変更：

技術提案簡素化型（総合評価方式、プロポーザル方式）

実施方針は1200字以内で記載 A4版1枚

評価テーマに対する提案は1500字以内で記載 A4版1枚

評価テーマに対する提案の評価方法

「的確性（与条件との整合性、着眼点等を**一体評価**）、実現性（説得力、業務実績を**一体評価**）」

2. 簡易型ショート版の技術提案書文字数及び技術提案事項の変更

総合評価落札方式（簡易型ショート版）の技術提案書の文字数および技術提案事項について、試行結果を踏まえ変更する。

⇒ 現行：

総合評価落札方式（簡易型ショート版）

「実施方針」または「業務実施にかかる留意点」を文字数400字以内で記載 A4版1枚

→ 変更：

総合評価落札方式（簡易型ショート版）

「実施方針」を廃止し、「業務実施にかかる留意点」を文字数600字以内で記載 A4版1枚

総合評価落札方式の改定のポイント

R3年度からの総合評価における新たな取り組み

3. 技術提案チャレンジ型の同種・類似業務の緩和

地場企業の受注機会を拡大するため、地域要件（企業の所在地）が「〇〇県内」「〇〇事務所管内」等に設定されるよう同種・類似業務の設定の考え方を緩和する。

4. 配点ウェイト変更の試行

技術提案評価に重みを置いた技術評価点とするため、技術提案簡素化型（総合評価（簡易型））において予定技術者評価と技術提案評価の配点比率を見直す。

⇒ 現行 予定技術者評価50：技術提案評価50（1：1）
→ 変更 予定技術者評価40：技術提案評価60（1：1.5）

業界及び発注者への周知期間を設けるため、これらの新たな取り組みについては、令和3年8月1日以降に公告する業務より導入する。

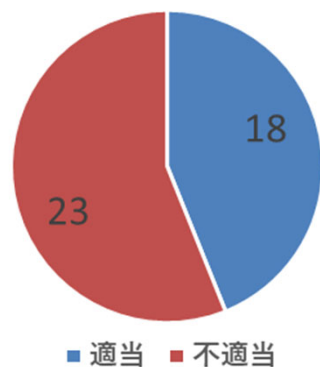
1. **試行業務の状況について**
2. **技術提案簡素化型の技術提案書文字数
及び評価方法の変更**
3. **簡易型ショート版の技術提案書文字数
及び技術提案事項の変更**
4. **技術提案チャレンジ型の同種・類似業務の緩和**
5. **配点ウェイト変更の試行**

1. 試行業務の実施状況について

試行業務名	試行概要	試行開始時期	R2年度の実施件数（速報値）		R3年度の方針	九州独自
			試行実施件数	対象業務		
1 担い手育成型	平成27年度より導入した若手・女性技術者の登用を促す試行業務をリニューアル。技術者の高齢化を背景として活用機会の確保を目的として、平成31年度より3試行を集約しベテラン・シニア技術者を加えた。	H31年度	試行実施件数	18業務	継続	○
			対象業務	総合評価落札方式全般		
2 技術提案チャレンジ型	地域の防災力の維持、既存インフラの維持管理を担う観点から、地場企業の技術力向上を目的に、受注機会の無い企業へも同等に競争参加の機会を与える。 平成31年度より受注（契約）実績を評価項目に加えた。	H29年度	試行実施件数	8業務	継続	○
			対象業務	地質調査、測量のうち価格競争入札方式で発注していたもの。H31年度からは「土木コンサル」を追加し、総合評価方式（難易度が低いもの）に対象を拡大。		
3 技術者評価重視型	評価テーマに代わり、技術者の業務成績と実施方針の配点ウェイトを拡大することで、業務成果の品質を確保する。	H26年度	試行実施件数	0業務	継続	
			対象業務	堤防・護岸設計 道路予備設計（用地幅） 構造物予備（一般） 構造物詳細・補修設計（一般） 道路詳細（一般）		
4 一括審査方式	同一内容の業務かつ同時期の発注が予定されている場合、競争参加者からの提出資料を一部省略し、受発注者双方の業務負担の軽減を図る。 複数の業務に参加表明できるが、落札決定通知を受けた場合は、それ以外の業務を受注出来ない。	H29年度	試行実施件数	61組（183業務）	継続	○
			対象業務	総合評価落札方式全般		
5 簡易型ショート版	従来の技術提案書（実施方針、実施フロー、工程表）を簡素化し、併せて参加表明書と技術提案書を同時提出することにより、手続き期間の短縮を図る。	R2年度	試行実施件数	22業務	継続	○
			対象業務	総合評価落札方式（簡易型）		
6 技術提案簡素化型	技術提案書の作成・審査を簡素化するため、文字数制限を設ける。	R2年度	試行実施件数	121業務	継続	○
			対象業務	プロポーザル方式 総合評価落札方式（簡易型・標準型）		

アンケート結果より、文字数が不適當であると回答した割合は約6割（23 / 41 回答）

技術提案簡素化型 文字数



<文字数が不適當であるとの意見>

- ・技術提案資料作成にあたっては、簡素化により負担軽減となりますが、文字数制限があるため、提案したい内容を一部しか表現できない場合があります。
- ・キーワード的な表現しかできないため各社の差があまりつかないものと考えます。文字数を増やして欲しい。

<評価テーマに対する提案の評価上の課題>

- ・評価の判断基準が多いと文字数が少ない提案では、評価しづらいため、判断基準を見直すことも必要。

文字数が不適當であるという回答全てで、文字数を増やして欲しいという意見であった。

⇒技術提案の充実化を図るため、以下の文字数制限に変更する。

実施方針：800文字 ⇒ 1200文字、

評価テーマ：1200文字 ⇒ 1500文字

2. 技術提案簡素化型の技術提案書文字数及び評価方法の変更(2/2)

評価テーマに関する技術提案について、文字数の削減に伴い、細分化された評価の判断基準を見直すべきとの意見。
 ⇒細分化されている判断基準を変更する。

【現行】

評価項目	評価の着眼点		評価のウェイト	
		判断基準	書面	ヒアリング
評価テーマに関する技術提案	的確性	地形、環境、地域特性などの与条件との整合性が高く、優れている場合に優位に評価する。	1 5	
		着眼点、問題点、解決方法等が適切かつ論理的に整理されており、本業務を遂行するにあたって有効性が高い場合に優位に評価する。	1 5	
	実現性	提案内容に説得力があり、優れている場合に優位に評価する。	1 0	
		提案内容を裏付ける業務実績などが明示され、優れている場合に優位に評価する。	1 0	
小計		5 0		

※配点はプロポーザルの場合



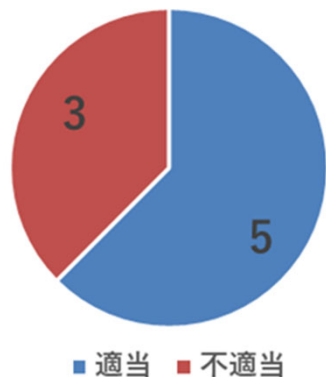
【変更】

評価項目	評価の着眼点		評価のウェイト	
		判断基準	書面	ヒアリング
評価テーマに関する技術提案	的確性	地形、環境、地域特性などを踏まえて着眼点、問題点、解決方法等が記載されており、本業務を遂行するにあたって有効性が高い場合に優位に評価する。	3 0	
	実現性	業務実績などを例示するなど、提案内容に説得力があり、優れている場合に優位に評価する。	2 0	
小計		5 0		

3. 簡易型ショート版の技術提案書文字数及び技術提案事項の変更

アンケート結果より、文字数が不適當であると回答した割合は約4割（3／8回答）。

簡易型ショート版 文字数



<文字数が不適當であるとの意見>

- ・文字数が少なすぎて、実施方針を具体的に書けない。
- ・文字数が少ないとキーワード的な表現しかできなかつたため評価に差が付きにくい。

<実施方針の評価上の課題>

- ・実施方針は、業務全体を網羅すべく記載となるため、簡易型ショート版では利点を明確にすることは難しく、評価も難しい。

文字数が不適當であるという回答全てで、文字数を増やして欲しいという意見であった。

⇒技術提案の充実化を図るため、文字数制限を変更する。

- ・簡易型ショート版の技術提案は、400文字 ⇒ 600文字

実施方針の場合は、業務全体を網羅した記載となるため審査や評価も難しいという意見。

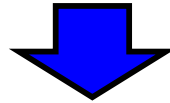
⇒「実施方針」or「業務実施にかかる留意点」の選択方式から

「実施方針」を廃止し、「業務実施にかかる留意点」のみへ変更する。

4. 技術提案チャレンジ型の同種・類似業務の緩和

(現行の課題)

- 地場企業の新規参入を促す技術提案チャレンジ型について、必ずしも地場企業の受注へ結びついていない。
- 業界からは、地域に精通した地場企業の受注機会拡大の要望も出ている。



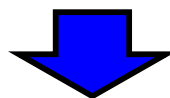
地場企業の受注機会を拡大するため、地域要件（企業の所在地）が「〇〇県内」「〇〇事務所管内」等に設定されるよう同種・類似業務の設定の考え方を緩和する。

※同種・類似業務は、入札参加可能者数（同種・類似業務の実績を有する企業数）を勘案のうえで設定しているが、別途設定される地域要件（企業の所在地）によって参加可能者数が少数となる場合は、十分な競争性確保の観点から地域要件が県外、全国等に拡大設定され、この結果、地場企業の受注とならない事例が散見されている。
このため、地域要件を「〇〇県内」「〇〇事務所管内」等に設定されるよう同種・類似業務の設定の考え方を緩和する。

5. 配点ウェイト変更の試行(1/2)

(現行の課題)

- 現行の総合評価方式(簡易型)は、予定技術者の評価点(表彰実績、業務実績等)が技術評価点に大きく影響している状況となっている。
- 実施方針等の配点を高めた技術提案を重視した評価方法が求められている。



技術評価点の予定技術者評価と技術提案評価の配点比率について、技術提案評価のウェイトを大きくした配点比率にすることを試行する。

技術評価点の予定技術者と技術提案の配点比率

現行

予定技術者：技術提案 = 50 : 50

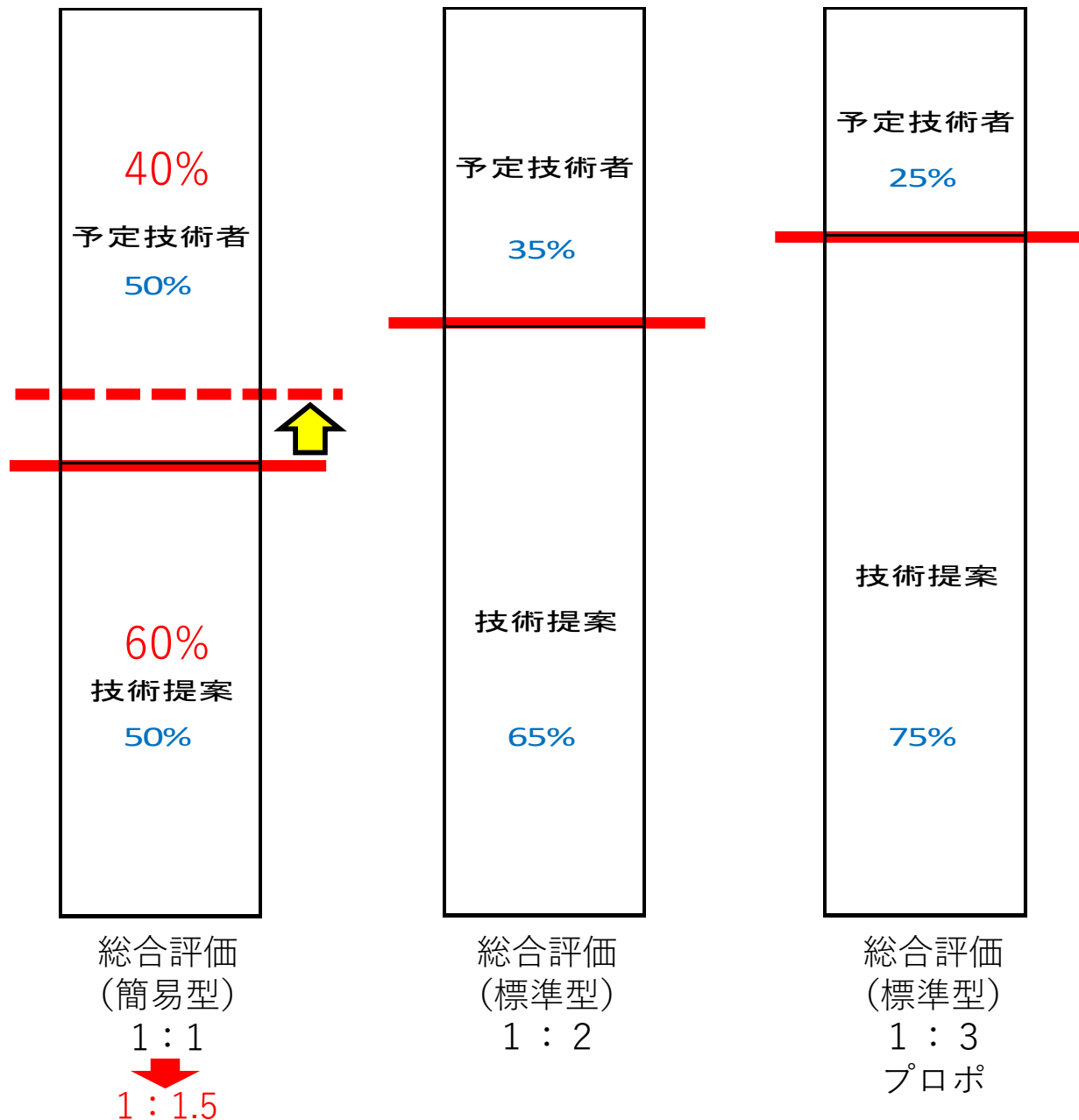


変更

予定技術者：技術提案 = 40 : 60

試行業務において実施件数が多い、技術提案簡素化型(総合評価(簡易型))で試行する。

5. 配点ウェイト変更の試行(2/2)



技術提案簡素化型の配点ウェイト